

## 「水源の森 秋の植物観察会」 2019.11.9

小春日和の好天のもと、福岡市水道局主催の曲淵ダム植物観察会が行われました。

午前中は水道局管理棟内で水源かん養林の座学があり、昼食後はお待ちかねの観察会です。

最初にアイスブレーキングで目を閉じて太陽の位置や風を、耳を澄ませて森の音を感じます。そのあと軽くストレッチ体操をして身体を柔らかくほぐします。

37名の参加者と水道局のスタッフ(7名)が5班に分かれ、それぞれの班にインストラクターが付きます。五感を通して植物や自然を観察すること、水源の森の大切さを伝えることを目指して観察会がスタートです。

マメヅタでパチンと音を出したあとは胞子の様子が驚いたり、カラムシをパンと鳴らしたあとは強い繊維に感心したりと、皆さっそく五感を開いて観察を始めます。

コメナモミのベタベタする腺毛に触れ、コセンダングサやダイコンソウの実をルーペで観察し、ひつつき虫たちの子孫を残すための強い思いを感じます。カツラの葉のカaramelのような甘い香りにうっとりとし、ヤマハッカやカワミドリの爽やかな色と香りに目が覚めます。

ヒキオコシの葉やネズミモチの実で良薬は口ににがしを実感し、ヤナギタデの葉の辛みに驚いたあとは、フユイチゴの甘酸っぱい実でお口直しです。もちろん希望者のみの味覚です。

舗装道路を過ぎて林道に入ると土のフカフカ感を足元に感じ、ここで一望できる森の様子から午前中の座学の内容を共有します。間伐されて林床に陽があたり下層植生が豊かな林と、間伐の行き届かない林との対比から森の手入れが必要なことを実感し、森林の遷移について話が及びます。

豊かな水量の曲淵の溪流では水の冷たさを手に感じ、色鮮やかな紅葉を楽しみます。



参加者の皆さんを見送ったあとのスタッフの反省会では、参加者の皆さんと秋の一日楽しい時間を共有できたこと、アクシデントなく観察会を終えられたことに感謝し、解散となりました。

スタッフ 鶴田 平川 手寫 久保田 常藤  
(記 常藤)

約3時間の観察会でしたが、参加者の皆さんには満足された笑顔があふれていました。グループごとの分かち合いでは「五感を使って身近な植物観察ができて新鮮だった」「植物のことをもっと知りたくなった」「春の観察会も是非参加したい」との嬉しい言葉をいただきました。

